

地球観測サミットの結果について

1. 地球観測サミットの経緯・目的

地球温暖化による砂漠化の急速な進展、水資源の不足、自然災害による被害などの危機を回避するためには、地球規模の諸現象について、正確かつ広範な規模で観測情報を取得し、流通させることが必要。

このような認識から、エビアンG8サミット(平成15年6月)では、環境保護と経済発展を両立させるための地球観測の重要性を強調。

サミットの合意を受け、国際協力の強化による地球観測システムの確立を目指した検討のスタート台として、第1回地球観測サミットを米国ワシントンDCにて開催。

2. 第2回地球観測サミットの開催

エビアンG8サミットにおける小泉総理提案に基づき、平成16年4月25日(日)に東京にて開催。議長は、河村文部科学大臣。

G8諸国(日本を含む)を含む43の国と1地域、世界気象機関(WMO)など25国際機関が参加。

地球観測システムの確立のための「10年実施計画の枠組み」を採択。

枠組みに基づき、具体的な10年実施計画が第3回地球観測サミット(平成17年初めに欧州で開催)にて決定される予定。

3. 「10年実施計画の枠組み」の概要

地球観測の対象及び目標の明確化

災害被害の軽減、気候変動や気候変化の理解・適応、水資源管理の向上など9分野

克服すべき課題の明確化

開発途上国の関与の強化、観測能力の技術的改善、観測体制の充実など

新たな地球観測システムの構築のための指針の確立

既存の観測システムの充実、新たな観測手段の導入、国際的推進メカニズムの構築

4. 我が国の貢献

内閣府、国土交通省、環境省等関係府省と連携し、科学技術の力を最大限に活用。

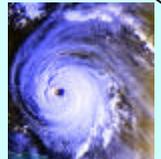
温暖化・炭素循環の監視

アジア・オセアニア地域を中心に観測を強化

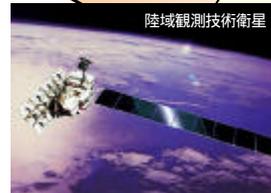


気候変動・水循環の解明

アジアモンスーン地域の多雨・干ばつなどの気候変動・水循環観測を強化



人工衛星・船舶・ブイなどを総合的に活用
世界最速コンピュータ「地球シミュレータ」を用いた予測の高精度化



アジア・西太平洋地域の地震・火山などの観測ネットワークを構築・強化



地震・津波・火山などの災害の監視



地球シミュレータ